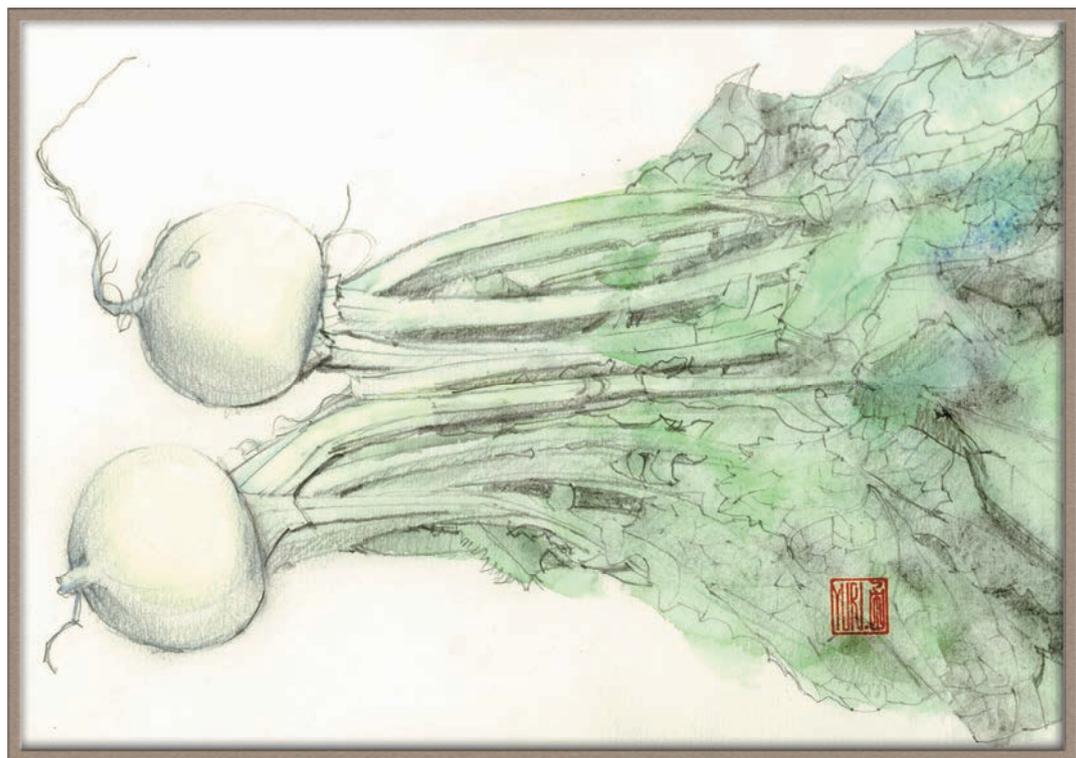


# 三河 アララギ

2020年4月 卯月 うづき

四 月 号

第 六 十 七 卷 第 四 号



ニューヨーク日記(162) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

COOKING WITH A HIMALAYAN SALT BLOCK

Blue Shoe Diaries



ちょっと変わった焼き肉やってみました～ヒマラヤの塩の塊を熱して（ストーブやレンジで）その上で焼き肉！塩だから食材には塩分付けなくて焼きます。焼き上がりは鉄板と大して変わらないしちょうど良い感じに自然に塩付けが付いて美味しい！野菜も上に火が通るまで乗っけるだけで美味しく出来上がり！後は一緒にユニオンスクエアのファーマーズマーケットで見つけたマイクロ菜でシンプルなサラダを作って何だかバランスの良いディナーの出来上がり！

Cooking with a Himalayan salt block! It looks interesting, right? So you heat up the block on a stove top or slowly in an oven. Then you prepare what you want to cook. In this case, I sliced thinly a rib steak. The key is not to salt the meat because it will naturally absorb the salt from cooking it on top. You want a quick sear on the meat and it gets seasoned perfectly. If you cook it too slowly or let the block cool off too much (therefore prolonging the cooking time), your meat may get too salty. I also threw on some baby zucchinis and baby corn which turned out great! You can snack on the corn endlessly. For a little brightness, I added a micro leaf salad that I found at Union Sq Farmers Market and voila, a nice and healthy dinner!

# 目次

## 第六十七卷第四号(通卷七九六号)

表紙・蕪 今泉 由利(1)

ニューヨーク日記(162) Blue Stone(2)

アカンサスの徑 御津 磯夫(4)

三河アララギ歌集 大須賀寿恵(5)

歌集「續草々」 今泉 米子(6)

三河アララギ歌集 河原 静誠(7)

「侘助」 岡本八千代(8)

無病息災 弓谷 久子(10)

宇宙 今泉 由利(12)

満天星 安藤 和代(14)

赤白椿 清澤 範子(15)

覚悟 伊藤 忠男(16)

流れるままに 矢崎 直人(17)

東京の空 森岡 陽子(18)

孫の入園 白井 信昭(19)

古文書 杉浦恵美子(20)

立春 山口千恵子(21)

心鎮めて 阿部 淑子(22)

夢日記 夏目 勝弘(23)

『こよせ』 いーはとぶ

牧原 規恵(24)

稲吉 友江(24)

鈴木美耶子(24)

吉見 幸子(24)

牧原 正枝(24)

石田 文子(25)

森 厚子(25)

山崎 俊子(25)

三田美奈子(25)

水野 絹子(25)

現代学生百人一首 東洋大学

沢邑 仁菜(26)

須藤 檀(26)

谷口 零皇(26)

逸見 侑可(26)

中嶋 粹志(27)

山野 花梨(27)

内田 佳恵(27)

大谷 康介(27)

森岡 陽子(28)

高橋 育郎(30)

山元 正規(32)

『俳句』 童謡 嗚呼 平将門公

森岡 陽子(32)

松本 周二(32)

山道 京子(33)

田中 清秀(33)

浜田 紀政(33)

重野 善恵(34)

植村 公女(34)

今泉 如雲(34)

今泉 由利(35)

杉浦 弘(35)

田中 清秀(36)

『酔いの徒然』(96)

丸山醉宵子(38)

『楽しい時間(89)』 山本紀久雄(40)

絹の話(113) 今泉 雅勝(42)

本田カイロプ拉克ティック先生の春夏秋冬 本田 勇氣(44)

『江上浩二の独り言』 江上 浩二(46)

漢詩研修(四十二) 平井 茂行(48)

『真・善・美』について 中屋 保之(50)

電車に乗りて大村湾を過ぐ 横山 精真(52)

仏像彫刻(三) 藤崎 徹(54)

夢日記 夏目 勝弘(56)

『氷魚』のことから(231) 岡本八千代(57)

編集室だより(二〇二〇年二月) 今泉 由利(58)

野菜・果物・まんだら(26) (59)

『三河アララギ』について (60)

## アカンサスの徑

御津磯夫

白と黒としづまる御堂の金の佛九品の眉のそれぞれの善  
みづからに彼岸にいたる難き世と佛來迎に人はすがりき  
澄み並ぶ佛をすぎて北の隅に矜羯羅童子のおもかげ幼し  
厨子の扉の秘めとざさるるは後四日奇しくも逢へる吉祥天女  
書きのこす言はよき言よき人の好き日に來りし愛のことばも  
みほとけは九體のみにあらざれば戀のふたりをさまたぐる勿れ  
撞き鳴らす鐘のひびきは乱れつつ人は來るならず法のこころに  
緋鯉などの人に寄りくる寺の池に静寂清淨の結界の標  
阿字の池へだてて彼岸に來迎佛しろ皓き連子の九つの中  
待つもののありてかなしく瑠璃寺の小さき池をひとたび巡る

## 三河アララギ歌集

大須賀寿恵

筋萎縮のきみの歌稿を書きてゆく未だ手の動くスモン病吾は

お茶を汲み酒の爛つけ鰯をさき今日一日の勤務くれたり

炭火埋め薬罐に水をつぎ足して火鉢のぬくみをたしかめている

粥を炊くわれの土鍋は確水嶺を越えゆきし日に拾ひ来しもの

献立カード作成委員の事務を残し御用納めの式に出でゆく

二百五十枚の献立カード見終へつつ元旦の一日暮れてゆきたり

配置転換の面接続きて痛む腰撫でつつ終車の時間見ている

ヘルペスに筋萎縮症にスモン病吾等病みつつ歌詠みつづく

御津川に投げ捨てられし芥の中に紅太く馬鈴薯芽吹く

危険個所見つつ開水路に添ひてゆく馬鈴薯咲ける上細谷より

歌集 「續草々」

今 泉 米 子

遠き日の父をたがひに言ひ出づる石山門前の店の諸子もろこに

びわ湖産の諸子はこれととり上ぐる姿煮並べし平たき包み

ここにしておわが知るゆゑにためらはず鮓ごりの佃煮走井の餅

ことごとく葉を落したる高槻の上の虚空おほぞらのかぎりなき蒼

草取りのすみたるあとにたちまちに緑あたらし冬かもじぐさ

はらはらのもみぢ残れる高槻の梢そよがず今朝の北窓

たちまちに甘藍の畝ひろごりて冬のみどりの野添の田畑

ほやほやの湯気たつ五目飯貰ひたり昼にいただく夕にいただく

地に低く伐られし竹の切り口をほめつつをりぬ伐りしは誰ぞ

たまたまに藪まで今日は二度ゆけり墓の華筒また竹馬に

## 三河アララギ歌集

河原静誠

屋根の上に石をおきたる低き家稀れに見えきて乗鞍近し

白樺の枯木の見ゆる谷を越え這ひ松ひろぐる頂上に着きぬ

白樺もたちまち見えぬ雲涌きて吾が目の前にいかづちの鳴る

峰々に雷とどろきて乗鞍のお花畠に降りきたる電

漏八の明星あふぎ仏前に梵網戒序をひとりひもとく

「幸水」と書きし小さき紙片添へて友にたまひし梨の実一つ

三才児保育資料を読みかへす母を呼びたることもなくして

園児らの午睡の窓に乗鞍の社に買ひし風鈴つるす

台風の予報に休園となりし午後幼な等の来て遊ぶ声する

幼児劇「仲よし」のいまはじまりぬ幾度も書き直しつつわが書きあげし

「侘助」  
ワビスケ

蒲郡 岡本八千代

「侘助」は去年こぞの如くに咲きにけりわれはゆらゆら心のままか

朝寝坊のわれはこの朝も侘助の咲く花散り花かやわらの傍たに佇たつ

老いるとはかういうことかよ花の名のきのふ言ひしにはや今朝言ひだせず

友と我ふたもとに二本に分けて下されしああ御津先生のこの侘助の花

きのふまで「侘助」と言ふが出で来ずに今朝ははつきり言へたる嬉し

今日もまた新聞の切りぬきしてをりぬ岡野弘彦の「時代の証言者」

若き頃の弘彦先生あまりにも魅力ある青年の新聞の写真

夜八時また甘きもの口に入れて本読まむとす静かなる幸福

「花あるは人生たのし」の武者小路のバラの花大色紙飾らむ

「雨の日は傘さして来よ」を思ひれば恰も傘さし庭徑来る人が

友ありて近くより友の来たるなり雨降る今日の愉しからずや

友ありて遠くも近くも愉しけれ雨よ降れ降れ如月の雨よ

夫とゐても言はざりしかの日のこと思ひ出しつつ如月の雨あつめ

教職を三十年経て退職せむと心に決めたるかの如月の夜

ノボタンの花の紫日に透かされくれなる色に風にゆれをり

## 無病息災

豊川 弓谷 久子

編みぐるみの赤鬼青鬼豆ひとにぎり飾りて今宵我が家の節分

仄暗き部屋から部屋へと豆まきし父の姿を思い出す夜

今季初の寒気が来ると予報聞く立春もはや過ぎたるものを

鬼祭りのたんきり飴が届きたり無病息災の縁起ものとして

一里の道を心はずませ歩きたり子供の頃よ今日は国府の市

熊手にて枯葉集むる吹き荒れし一夜の風も収まりゆけり

一面の菜の花畠がテレビにうつる渥美半島田原の菜畠

伊良湖への旅思ひをり苺刈り菜の花畠に恋路ヶ浜と

若草色に莖立ちてをり露の臺三日見ぬ間の庭の片隅

梅の花が今満開と子より聞き訪れ見たり奥山の梅

奥山と地名残れり天正の昔砦のありしこの土地

人氣無き道端に佇ち散り初める梅の花眺むる杖を頼りに

藪椿の花一輪を手折りて帰る梅見て来しと子に告げむ

新築の家建ち並ぶこのあたり畠仕事の姉はまぼろし

子の生れし朝も父の逝きし夜も如月の尽思いは深し

## 宇宙

東京 今泉 由利

太陽と地球との距離1億5千万キロを隔てて今日の日向ぼっこ

私の肌に23度の温もりよ太陽光を独り占めつつ

わずかなる刻刻たちまち日焼けする太陽のこと知りはじめむと

太陽光遮る物質数多<sup>あまた</sup>あらむ私の部屋に朝の日全<sup>また</sup>けし

太陽に寄りて命のあることを今あらためて太陽のこと

一千億光年の話を聞きてをりその光年に私を加ふ

昨夜降りし雨のなごりを光らせて山桃雄花の花盛り

小庭辺の山桃雄株の花盛りいづこに咲くか山桃雌株

なるべくを外出控える日々にして群雀のピチピチピチピチ

宇宙にも終りがあると聞こえてまず自らの命のことを

膨張を続ける宇宙の内にしておそらく正しく生きてゐるか

ダークマターとダークエネルギーのバランスの頂度良くして今日の私

宇宙にて地球に山百合咲く時に母の子となる由利と名付きて

残されし母の歌集を繕とけり母と同じき私に出あふ

祖父母と父母と兄弟姉妹の家族大円卓に集ひし頃を

満天星 どうだんつつじ

豊川 安藤 和代

幸せと思えばそれも幸せよ雀の鳴いて梅もふくらむ

梅咲けば二才で逝きし妹の「梅代」と言うを偲ぶ立春

なく犬を叱ればヨロヨロ小屋に入る犬も老いたり吾も老いたり

食べてるか眠れているかと孫からのメールに心の花は満開

朝夕の冷えはあれども陽は温し庭の満天星芽吹き清しき

目覚めれば救急車の音遠くから聞こえ来たりて息深く吸う

畑荒し嫌われている鴨も生きる為ですと声高く啼く

春嵐花片枯葉紙切れもお土産のごと玄関に寄す

如月のとぎすまされし満月の光しんしん心引きしむ

自分の事自分で出来れば満点と今日の記事につける花丸

スカーフとルージュの色をかえてみる老いには老いの春の訪れ

## 赤白椿

春日井 清澤 範子

吾が庭のひさしに届く椿には春を待たずに咲きはじめてたり

裾にある蕾は次ぎつぎ膨らみて中に真紅の一枝ありぬ

椿咲けどまだまだ寒き今頃よ「北風小僧」の曲を流して灯油販売車

吾が庭の椿は赤白混じりなり陽当りの良き花から満開

貝塚伊吹と並びて南天実をつける赤と緑と庭のにぎわひ

雨戸を開け吾を呼ぶ夫は庭にある赤白椿ほら咲いたよと

吾が夫は図太くなれと吾に言ふ主婦業頑張る最善尽す

米こうじほぐして甘酒作るなりご飯の量と温度調節

寒波来て厨の窓の明るかり雪の中にも鳥の声あり

休日の朝は学童の声はなし少し淋しく門戸を開けぬ

## 覚悟

大阪 伊藤 忠 男

春なのに気持ち晴れぬはいたずらに過ぎるを祈る日々ばかりなり

世界への恐怖振りまく根源を文化なるなば断ち切れざるや

先ず初期に見つけ手を打つ基本なり和歌山モデルこれぞあるべき

「おかえり」の言葉うれしと激励に応える亜由子心に誓う

迷い無しそつと見守ることこそが力なるなり励ましになる

イベントの直前中止何とする気落ち混乱先読めぬほど

コロナすら吹き飛ばすか激励の嵐も事前の準備あるこそ

「しもうたや」「おはなぎつねにやられたはや」だけどあの日に火事知らさるる

村人とキツネ互いに縁深き日々はほのほの民話の世界

盆梅の屏風に写る影見事伝わる香り例うべき無し

雪の無き雪見クルーズ琵琶湖船デッキならこそ戦国ロマン

弓に槍鉄砲抱え行き来した湖上は京と夢繋ぐ道

## 流れるままに

東京 矢崎直人

イルカショーアザラシショーにアシカショー水中ショーと流れるままに  
イルカショージャンプの高さ豪快で華麗な演技見事に決める

アシカショー自分で自分に拍手する褒めておだててアシカは伸びる  
アザラシの陸が上がって芸をする陸の上ではあまり動かず

海豹あざらしの悠々自適水中のガラスの向こう大きく泳ぐ

アザラシの目の白きこと知らなんだ感動している自分に苦笑  
ペンギンと「だるまさんがころんだ」勝てる気のせぬ直立不動

ミイラ展體は腐り消えるモノ残りし願いに思いを馳せる

君の名は森村泰昌誰のでも衣裳思想を着替え成りきり変身

隣にもいるかもしれぬ難民の申請をする見えない人が

油断して真冬の寒さ煌々と寒々と照る春の月下

## 東京の空

東京 森岡陽子

小宵聞く久方振りにラジオより勝新太郎の小唄「せかれ」

初寄席は手拭なげて畳頂にと縁を結びて再びの来席

半年で景色の変わる市場前車窓から見た荒地はビル林立

紅梅の紅色日差す春の午後コートは薄地シヨールはシルク

朝焼けは屋根と屋根間に輝くも東京の空狭し狭き也

沢山の枯れた実残る木瓜の花今年の紅色茶色は昨年

初雪やセンター試験の学生は足元気を付け先ず歴史から

白加賀の名札ぶらさぐ白梅は天神様の太鼓橋きわだつ

裸木の淋しき姿のその元は何時の間にか青草萌え出づ

## 孫の入園

豊川 白井信昭

軒端なす花紫のノボタンの二花三花ちりては咲けり

幾度かわが子に乗せしベビーカー三十四年たちなほ使えり

部屋の内と妻と孫とおもちゃにあやす息子帰るまで

見回りの東大塚道かえて長興寺跡は「ラグーナヒルズ」のおかに

古りにしなまき柵の大樹三つ今はなし造成地建て売り住宅

芳信公の駒繋ぎの木と伝え来て返す返すも残念無念

御堂山すそ野に段段畑してみかんを培うおぼ伯母なきいとこ従兄弟ら

み社また「ラグーナヒルズ」伝ひガードをぬけ来て姫塚の前

内越して三河湾遠く見渡せし青年期あり壮年期あり

道ひとつ隔てる畑にとうのたつ白菜ひとつ黄鮮やか

古文書

蒲郡 杉浦恵美子

山蔭の老樹に咲ける梅の花蕾より白し今年は暖冬  
通る度滂沱の涙我が夫を亡くしたばかりの国坂峠

行き帰り否応もなく夫想ふ国坂峠は想ひの扉

山道の傍ら民家は鎮もりて春未だ浅き国坂峠

幕末の御役人への御弁当献立に竹輪もありけり小江村古文書

御茶煙草続いて上酒を進らせる安政七年五人組御改接待

歌枕の末のはら野と云ふを知る大洋望む二川あたり

竹島の先に連なる渥美半島そのまた先は末のはら野か

綿埃舞ひゆく先を見つめをり立春迎へし日射しの中に

我が夫の生れし直方訪ねんと思ひ立ちたり雨水を過ぎて

今はもう夫に訊けない直方のあちこち縁者の所在さへ

立春 豊川 山口千恵子

軽ろやかな足音させて通りすぐジョギングの青年われの脇を

二回目の組長会議の通知あり三月に終る一年間のお役

今日一日何ごともなく過ぎにけりカレンダーには立春なりと

足先に電気アンカをひきよせる足先あたたためい寝むとす

冬枯れの庭を彩どり咲きにけり一かたまりに黄水仙の花

畦に沿い溝深々と掘られつつ休耕田に麦蒔かれゐる

昼すぎに「三河アララギ」届きたり郵便屋さんに手渡しで貰ふ

海拔八メートルの標立つ公民館の前を曲りぬ

プランターに尖り伸びくるチューリップ球根植ゑた時の間隔

貝母百合いつもの処に生えてきぬその幾本は蒼もちつつ

## 心鎮めて

横浜 阿部 淑子

AIの飛躍的進歩競えどもコロナウイルス防御もどかし

クラスターのコロナウイルス拡大の抑制なるか今こそ分岐点

今日も又ため息多き日なれども心鎮めて明日に望みを

春一番吹いたと知れど翌日は寒気団の大きく迫りて

二月半ば四月の陽気も顔出して梅と桜が出合いて咲きそむ

新春の祝い花に添えし雪柳塗られし金色分け吹く命

## 夢日記

豊川 夏目勝弘

(二月九日の明時夢にて短歌百首を作れの声にて作りし五首)

目の高さに金魚鉢が浮き出でり目高一匹泳ぎてをりぬ

唐突に野太きの響き来ぬこれにて歌を百首作れと

我が方に目高が静かに泳ぎこしハタと止りて見詰てをりぬ

この目高何か言ひたきことあらむ思ひ運らす分かるはずなし

我がことを大ナマズと見てゐしや戯れごとを口遊みけり

(ここにて目覚め浮びくる夢を思いつつ作りし五首)

金魚鉢の中が目高の終ツイの世界外界に出るは死をもつてのみ

我もまた地球が金魚鉢ならむ目高と同じ終ツイの住処ぞ

我が行ける異次元世界は夢にてのみ逝きにし人が会ひに来るなり

我が脳裏に録画されゐし夢トオ十余り消去をさせるボタンのあらず

夢日記を数多残せし高僧の明恵上人に思ひを運らす

『ハルカ』

西浦公民館 いーはとぶ

わが畑の甘くなりたるネーフルよわれより先に鳥の餌となり  
ベランダのずらり並べし切り干しよふり込みし雨になすすべもなし

牧原規恵

軒下の幽かな音の聞こえるひとりぼっちの冬の風鈴  
午後三時洗濯物を取り込めば冬の陽ぬくぬくのやはらかき匂ひ

稲吉友江

ゆるゆると坂道下ればみえてくる稻生の海の白き冬波  
「世の中よ」俊成の歌読み解くけふ中学三年生と共に学ばな

鈴木美耶子

パプリカを踊る幼と大晦日賑賑しくも一家団欒  
誘はれてカウントダウンの八王子幼と満天の星

吉見幸子

城山の道をよぎるか眼の前を確かにキツネと友とうなづく  
半年も花咲き続きこの晦日まだ八個なるピーマン収穫

牧原正枝

手を引かれ雑踏分けてホーム歩む師走の古都に息子の暖<sup>あたたか</sup>み  
爽やかに新年明けり空高く冷たき風よ京の佇まる

石田 文子

人多き車内にひろがる声もなく「刈谷刈谷」とアナウンスひびく  
誰一人話す声なくスマホする地下鉄車内にアナウンスひびく

森 厚子

梅櫛で髪梳く朝になつかしむ友と飲みにしコーヒーの味  
窓遠く冬の海見ゆ寒き日のうす昏き部屋にひとり本読む

山崎 俊子

大枝のばっさり伐られりこの庭の老松は余生のばすかも  
見はるかす伊良湖水道輝けりけふみどりごをわが胸に抱く

三田美奈子

サイレンの遠く近く鳴り渡る今宵は何処へひた走るのやら  
年明けは吾が子も孫も寝正月思ひ知らさるるこのインフルエンザ

水野 絹子

# 現代学生百人一首

東洋大学

滝の汗前髪ぬれてバーコード部活女子の夏の天敵

東京都立片倉高等学校一年

沢 邑 仁 菜

喜びも切ない時もマジ卍まんじいつからだろう日本語が変

東京都立蒲田高等学校三年

須 藤 檀

ここじゃない色んな角度で撮るカノジヨ冷めてくワタシのご飯と気持

東京都立小岩高等学校三年

谷 口 零 皇

十八歳二年もはやい選挙権ふと足止める駅前の声

東京都立小岩高等学校三年

逸 見 侑 可

雨ふれば大地がうなる土砂崩れ飲まれゆく家立ちつくす僕

東京都立八丈高等学校二年

中<sup>なか</sup>島<sup>じま</sup>粹<sup>いな</sup>志<sup>せ</sup>

何にでも「平成最後」とタグ付けてそれでも変わらず流れる日常

東京都立保谷高等学校一年

山<sup>やま</sup>野<sup>の</sup>花<sup>か</sup>梨<sup>りん</sup>

目の前に私がいるのにケータイに夢中になって透明人間

東京都立美原高等学校一年

内<sup>うち</sup>田<sup>だ</sup>佳<sup>よし</sup>恵<sup>え</sup>

コンビニの募金箱見て思い出しそつと戻したおやつのプリン

東京農業大学第一高等学校二年

大<sup>おお</sup>谷<sup>たに</sup>康<sup>こう</sup>介<sup>すけ</sup>

贈呈誌

森岡陽子

冬雷 3月号

- 思ひきり葉を落としたる冬木立潔く立つ陽に照らされて  
天野克彦
- 空見上げ山々に向かひ深呼吸今年一年笑顔であつたし  
有泉泰子
- 秋の夜は煌めく星の多かれど圧巻は流星オリオン座  
三木一徳
- 曲がることなくつづく田水路の反照乱し騒ぐ鴨らは  
水谷慶一郎
- ああ面倒ほんに面倒と言ひながらわれは数への百歳となる  
鷺司法子
- 一瞬の鳩との出会いにほっこりとしたる良き朝空澄み渡る  
田中祐子
- 窓開けて船笛を家に響かせむ新しき風まこと清清し  
及川智香子
- もみ殻が敷き詰められる茶畑に降りてついでむ雀ら賑やか  
横田晴美
- 古峯山に雪降らざれど真向の高き蔵王嶺雪よ降れ降れ  
武田清一郎

鹿兒島アララギ 1月号

○剪定を終えて日当りよき庭に洗ひ物干す竿いつぱいに

郡山禮子

○柿の実は寒き野分に落ちもせで馴染みの雀の到来を待つ

千葉源治

○少しづつ冬の朝日は昇り来て噴き上げし桜島の火山灰よなにかくれぬ

泊興子

月虹 132号

○一日の終りのよすがカーテンを引きて灯りを部屋に閉じ込む

成島哲子

○令和二年一月五日青空に天を貫き御柱建つ

清水和子

○夕食後今日も終わりと云う人あり昨日も同じたぶん明日も

水上信子

# 嗚呼 平将門公

高橋育郎 作詞

一 筑波おろしに たてがみを

なびかせ いなく駒一騎

ここ坂東の 野に立てる

花の若武者 小次郎の

英雄しき姿 ああ風を呼ぶ。

二 京にのぼれば 世の乱れ

熱き血潮に 風寒し

道を正しく 歩まんと

野に立ちかえる 将門の

うしろ姿に ああ雲が起つ

三 豊田の里よ ふるさとよ

傷みし胸も 春の日に  
和めば夢の ひろがりて  
土に生きよう 民人と  
今宵の宴 ああ月高し

四  
みじかき春は さだめかや  
重なる遺恨 晴らすとき  
涙をのんで 迎え撃つ  
揮う太刀さえ 情けあり  
讃えし声は ああ天を往く

五  
西に純友 海に起ち  
東に将門 相呼びて  
正義のときは 来たらんと  
火雷天神の 旗頭  
歴史は今ぞ ああ虹架ける

『俳句』

早春の光練り込む紙粘土

山元正規

野地蔵の膝くすぐりて草萌ゆる

省けるは影まで省き冬の草

春の宵角打ち店に酒幟の立つ

森岡陽子

大木の枝間に覗く春の月

枝垂れ咲くミモザのカフェは煉瓦道

ウイルスの地球席卷二月尽

松本周二

春一番弄る。ピザやのバイク便

風光る平城宮趾もとほれば

春愁やコロナウイルスの見へぬ敵

山迫京子

園内の一步に香る枝垂梅

梅一花咲いて狭庭の華やげる

朝日影みくさ離さぬ薄氷

田中清秀

春浅し扉閉まらぬ閻魔堂

夕間暮れ動きだすよな臥竜梅

白梅や少女の混じる野球チーム

浜田紀政

目印は巨木の梅と念を押す

病癒え人もまばらの初詣

立春や庭に豆粒五つ六つ

重野善恵

紅椿暮れて雀の嗚かな

片栗花飛び立つかやに反り返り

初売のペットシヨップや猫背のび

植村公女

出棺を見送りし黙冬青空

分数は苦手なままや卒業す

冬ざれの古書の文庫の山田風太郎

今泉如雲

渤海の磁器出土とや冬の風

団栗や古代城柵ありし丘

公孫樹雌雄を言ひて春うらら

今泉由利

メンデルのブドウ分株芽ぶき初む

ふつくらと弾力のあり春の土

柚子の木を揚羽の二羽のひとめぐり

杉浦

弘

春遅々と四千年目帚星

ひともとに紅白梅の咲き分けて

ものの芽やわれのいのちははかなくて

一茶名句集より

〔大正十五年六月一日七版〕

落葉して佛法流布の所在かな

冬木立昔々の音すなり

おもひ草思はぬ草も枯にけり

きゝ絵へ竹の雀もちよくと

おのづから頭の下るなる神路山

# かさね吟行会

## 「小石川後楽園」 二月

田中清秀

小石川後楽園は水戸徳川家の上屋敷内に作られた築山泉水回遊式の日本庭園である。一六二九年、初代藩主頼房の時に着手して、二代光圀の時代に改修の上、明の遣臣朱舜水の選名によって後楽園と命名されて完成した。中国の教え「天下の憂いに先じて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」に由来する。七万平方メートルを超える広大な敷地には、蓬萊島と徳大寺石を配した大泉水を中心に多くの花や木々が植えられており、四季を通じて情緒豊かな景色が多くのの人に愛されている。

令和二年二月十四日、天候は曇りながら薄日の差す穏やかな日和となった。庭園奥の梅林には早咲きの梅はほぼ満開となり、遅咲きの梅もほころび出してほのかな梅の香が漂っていた。

紅白梅ひなた日向をほし  
 紅白の引き立て合ひて梅の園  
 梅が香やマスクの人のをちこちに

正規 京子 紀政

今年は新型コロナウイルスの流行で世間は大騒ぎ、その影響で梅見客の多くがマスクをしている。日本人だけでなく多くの外国人が来園していたが、マスクで折角の梅の香りを楽しめないのは残念である。

この庭園は小石川台地の先端に位置し、神田上水を引き入れて築庭されており、光圀の儒学思想の影響で中国の名所旧跡を模して落ち着いた雰囲気がある。そして、国の特別史跡と特別名勝の指定を重複して受けている庭園はめずらしい、その指定の際に岡山の後楽園と区分するため小石川の名を冠している。現在は都立公園として整備され一般に公開されている。また、隣接する東京ドームは主に野球や音楽コンサートとして活用され、さらに同じ敷地内の遊園地には人気の急勾配のジェットコースターがある。その絶叫の声は梅林までもこぼましてくる、その絶叫を俳句に詠み込みたくてもジェットコースターの横文字の使い方に苦労する。従って作句はいくつかあったが、残念ながら自選句からは皆さん除いてしまった。

水温む円月橋の水鏡  
 香りして足早め行く梅林  
 紅白に遅速のありて梅見かな

周二 陽子 素山

梅の種類は多い、中国からの渡来種の他に、日本で

は江戸時代に多くの品種改良が行われ、その数は現在、三百種以上あると言われている。花を觀賞する花梅と実の採取を目的とする実梅に大別されるが、清楚で氣品がある花梅の方にもつばら関心が向く。その名前も白加賀、鶯宿、玉梅、紅千鳥、月世界、緋の司など魅力的な名付けが多いのも楽しみのひとつである。また、「桃栗三年、柿八年、梅はすいすい一六年」との諺があるが、物事は簡単にいくものではなく、一人前になるには地道な努力と忍耐が必要という比喩だが梅の十六年は長すぎる。因みに俳句は十年でやっと一人前と言われているようだ。

難しい話しは抜きにしてゆっくりと「君ならで誰にか見せむ梅の花、色をも香をも知る人ぞしる」(紀友則)など和歌でも口ずさみながらゆっくりと梅見を楽しもう。

名園に人まばらなり枝垂れ梅

老木の幹に一輪白き梅

偕楽園より里帰りに梅ひらく

れい子

清秀

さち子

水戸黄門漫遊記は、元禄時代に犬公方として名高い五代將軍綱吉の治世、隠居した光圀公がお供に俳人を連れて、諸国漫遊をしたと言う世直しの旅物語である。そして、悪政を行う大名や代官には自らの俳号「水隠梅里」を書き示し、その正体をほのめかしながら悪政を糾す。実際には、参勤交代のない水戸徳川家の光圀は江戸定府で

あったので史実とは全く違う講談師の創作であるが、お供が俳人で光圀には俳号が使われるなど我々とのゆかり有る点になぜか親近感を覚える。ここの梅の名前にもその由来のものがあつた。

句会は園内の涵徳亭でおこなつた。ここは玻璃障子紙を明かり取りに用いているため「ガラスの茶屋」とか「びいどろ茶屋」と呼ばれた。享保のころ、林信篤が涵徳亭と名付けたと言われる茅葺きの歴史的な建物である。昭和六十一年に再建され、お休み処と集会場として一般に利用されている。ガラス戸から水戸藩の書院あつた池を中心とした純日本式の庭園をながめながら、囁目三句四句選でいつものように熱心に作句に取り組み、風流の内に見の吟行はお開きとなつた。

■かさね吟行会■

日時 二〇二〇年四月十日(金)

場所 千葉の袖ヶ浦公園

集合 JR川崎駅

真ん中の出口 時計台の下 10時

申込 森岡陽子苑 (03) 3712・2835

## 『酔いの徒然』（九六）

丸山 酔宵子

### 『油絵事始め』

思い立って強引に始めた油絵は30年程になるが、未だ遠近法はままならず、いつも試行錯誤の連続である。

そもそも油絵を始めたのは、新卒で入った外資系広告代理店で、コカ・コーラやGMいすゞのAE（担当営業）として、三つ揃いのダークスーツをピシッと着こんで颯爽と活躍もしていたが、10年務めて突然辞め、無謀にも貿易会社を起業したことに始まる。

特に食品や酒類の輸入販売のため、商品輸入のL/C（信用状）開設費用などの資金繰りに明け暮れていた。当然銀行借り入れや手形も振り出し、手形決済の終わった日など「今月もやつと生き延びた・・・」と、束の間の安堵感を、やれ銀座だ、六本木だと馬鹿騒ぎで刹那的な日々を送っていた。

しかし、翌日二日酔いで目が覚めれば、次の決済、従

業員給与、売掛金回収等々なかなか心落ち着かない。酒やゴルフで紛らわすのではなく、何か只管（ひたすら）没頭できるものはないかと考えていた時、ふと頭に浮かんだのは、小学生の頃、ラジオで「笛吹童子」や「紅孔雀」を聞きながら一心不乱にクレヨンで描いた絵である。そこそこ、先生に褒められ、鎌倉美術館に展示されたこともある。

「ヨーツシ・・・。油絵でもやるか・・・。」と即座に自由が丘の画材屋に行き、イーゼルも含め初級編一式購入、強引にもキャンバスに描き始めたのである。最初はニンニクやレモンなどの静物をそれなりに健気に描き、画材屋に見てもらうと、「こんな薄塗ではダメ」「何を描きたいの?」「色が汚く悪い」「美術館とか展覧会にもっと行って、たくさんさんの絵を見なくちゃ・・・。」と散々。

仕事や友人との待ち合わせの合間や時間があれば、美術館や画廊に立ち寄り、「なーるほど・・・、ガラスは向こう側を書けば透明感が出るのか」「影は黒じゃなくいろいろな色の反映なんだ・・・」「立体感影と裏を意識すれば・・・。」などと一人納得。

そんな折、油絵を初めて10年目、上野の森美術館主催「日本の自然を描く展」に「初雪の浅間山」を出品し、図らずも入選したのである。それ以来11回連続入選し、その気になって、現在も「我流点晴を描く」で続けている。

最少はゼロ号から最大100号、風景からワインボトルやカクテルグラスまで、気ままに描き、行きつけの銀座のバーにもワインボトルやカクテルグラスが飾られている、いや、飾らせていただいている。また、ここ10数年、お酒をめぐるカルチャーマガジン「月間たる」（高山恵太郎会長・創刊40周年）に『春宵酔刻』というタイトルでエッセイとともに水彩画を毎月寄稿の機会をいただいている次第で、歳を重ねるとともに、恥を無視し、更に厚顔無恥に描き続けている次第であります。

キャンバスに色を重ねて初浅間

酔宵子

2020年2月29日

山本紀久雄

神にならなかつた鉄舟・・・その十九

前号で結城素明は、『江戸開城談判』壁画の刀の位置など、どうでもよかつたのではないかと述べ、二世五姓田芳流が描いた『画題考証図』において、海舟の刀に位置が左側であることに疑問持たずに、そのままの状態を描いたと結論化した。

しかし、先日、再度国会図書館に行き、改めて『明治神宮叢書第二十巻図録編』（平成十二年十一月二日発行）の「壁画画題考証図」を閲覧し驚いた（下左図）。この考証図では海舟が右側に刀を置いており、左欄外に「壁画画題考証図」と明記されている。



ている（上右図）。明治神宮から送られてきたものは、「明治神宮宮司 中島精太郎」の記載と、神宮宮司の印鑑朱印があり、「貸出資料」として「結城素明画 壁画画題考証図『江戸開城談判』写真データ一点」と明示されているから正式使用許可書である。

だが、今回見つけた『画題考証図』は、『明治神宮叢書第二十巻図録編』に掲載されているので、偽物ではないだろう。そこで明治神宮社務所の担当部門に問い合わせしたが、回答はまだ届いていない。だが、仮に今回見つけた平成十二年版の『画題考証図』が正しいということになると、今まで結城素明を長々と検討してきた結論が無意味となりかねない。

つまり、素明は海舟の刀に位置を『画題考証図』と異なる描き方で壁画を完成させているわけで、これは重要なポイントだ。

歴史を研究し検討している者として重要な役割は、常に資料・史料に基づいて考察を続け結論を導き出すことであるが、今回のように異なる史料が存在する場合は、その史料を所有する当事者に説明を求めるしかない。明治神宮社務所からの回答は、しばらく時間がかかると想定する。この件については稿を改めて報告したい。

さて、江戸開城は慶応4年（1868）4月11日である。したがって、「江戸無血開城」をテーマに壁画を描くなら二世五姓田芳柳が描いた下絵①「江戸開城（玄関前）」と②「江戸開城」が妥当なことは当然である。しかし、聖徳記念絵画館壁画は③下絵「画題無記名」に基づき、薩摩屋敷建物をカットし、屋敷内の一室で対峙する海舟と西郷を抜き取って、題名を「江戸開城談判」とした。

明治神宮奉賛会理事で、事務局として聖徳記念絵画館壁画作成に關する実務を取り仕切った水上浩躬は「壁書題選定の経過及其成果（2）」（『歴史地理』（大正11年2月1日發行）で「江戸開城」が選ばれなかつた理由を次のように述べる。

《正面より描写するときは余り表面的に流れ、側面より描写する方却て其真相を現はすに妙なるものあり、斯る書題は御身辺の遠近に拘はらず側面描写に據れり、大政奉還に關し奏聞嘉納の場を捨てて二條大広間の場を取り、江戸開城に關し江戸明渡の場を排して、薩摩邸談判の場を擇みしが如きは、其例の顕著なるものなり》

難しい書き方で、理解が難しいが、同様なことが平成十二年發行の『明治神宮叢書第二十卷図録編』の「三・壁画画題考証図」（100頁）に「画題選定の方針」として記述がなされている。したがつて、西郷と勝の薩摩邸での談判会見場面の方が「真相を現している」から採用したのだと判断するが、しかし、この水上文言表現は「江戸開城」から「江戸開城談判」へと主題を変えたことを述べているのであつて、「江戸開城」の「真相を現している」とはとても思えないし、「江戸無血開城」そのものを壁画から抹殺したことにつながる。

聖徳記念絵画館の壁画は、大正7年（1918）1月の段階で85題と内定していたが、最終的に大正11年（1922）7月に80題となり、明治天皇が伝統世界に生きておられた前半生を日本画で、近代化する明治に生きた後半生を洋画ということを決定された。

明治天皇にとつて、前半生で最も影響が大きく重要な事件は「明治維新」である事は論を待たないであらう。

そこで「明治維新」に關連する壁画を挙げてみると、5『大政奉還』、6『王政復古』、7『伏見鳥羽戦』、8『御元服』、9『一條城太政官代行幸』、10『大総督熾仁親王京都進発』、11『各国公使召見』、12『五箇条御誓文』、13『江戸開城談判』（数字は壁画番号）であつて勿論「江戸開城」はない。

徳川慶喜が鳥羽伏見の戦いで負け、江戸に帰還したことで、戊辰戦争の勝敗はほぼ決着し、江戸城を明け渡したことで成立したのが明治維新である。したがつて、「江戸無血開城」は最も重要な要件として挙げられてよいはず。

ところが、江戸開城が壁画に選定されず、俗人的要素に基づく「西郷と勝の薩摩邸での会見場面」が水上によつて選択決定された。

二世五姓田芳柳は『下絵』を描くにあつて、水上とともに、各種の史料資料を確認し、各地を視察するなどの「取材」を行っている。

特に東京市内へは、何度となく視察を繰り返し、また、画題に關係する様々な名家へは、数十回の訪問を重ねたというから、「江戸開城」の画題としての重要性は十分に認識していたであらう。だからこそ『下絵』①の「江戸開城（玄関前）」と、②の「江戸開城」が描かれたと推測するが、①と②は選定されず、水上によつて③の「画題無記名」が『画題考証図』となり壁画になっている。いったい何が水上の判断に影響を与えたのだろうか。

それは結城素明に『江戸開城談判』を描かせるという、画家の選定決定が背景にあるのではないかと推論するが、以下、次号で検討する。

## 絹の話 (113)

「アトリエテレビ」今 泉 雅 勝

### 絹の化粧品の予期せぬ効用

#### 天蚕ハンドクリームで痒み解消

日頃、絹製品を販売しながら絹が身体にも環境にも良い事をお客様にいつも話しています。

自分も季節を問わず下着は靴下まで野蚕の絹を着用し、販売時にはではブラウスなども野蚕絹を着て、冬のマフラーは絹の中で最も柔らかいエリシルクを使っています。

朝、ひげ剃りして顔を洗った後は、ひげ剃りクリームの代わりに家蚕のシルクローションを塗り、手には天蚕のハンドクリームを塗ります。

そのせいかな、馬齢を重ねた今も、一般健康診断では問題になる数値は有りません。絹の空気を吸っている当スタツフも同様です。

ところが、3年余り前から足のすねに痒みを覚えるようになりましたので、皮膚科の医院に行った所、「老人性乾燥肌で、誰しもそうなって行きます。」と診断され、軟膏を処方されました。塗った直後は何となく痒みは収

まるのですが、夜半にふくらはぎの方まで強烈に痒くなったりする様になり、新たに軟膏や飲み薬を頂きましたが、薬が2、3日切れると痒みが戻って来ます。薬がなくて大腿部まで拡大して来た夜、思い余って、いつも手の甲に塗っている保湿性の高い天蚕シルクのハンドクリームを足全体に塗ってみました。しばらくすると、不思議に痒みが消えて安眠する事が出来ました。

その後は医者に行く事なく、3日に一度程度天蚕ハンドクリームを塗っています。

思わぬシルクの効用にビックリしている昨今です。

#### 痒みの原因は何で有ろうか

若い年代では古くなった皮膚は垢となって破棄され、新たにみずみずしい皮膚が不断に代謝されますが、年をとるにしたがって新陳代謝の衰えから、皮膚の表面の角質層の代謝も衰え、古い表面の角質層の水分が失われ、乾燥し、所々破れて、第2角質層が露出し、そこに雑菌が繁殖し、皮膚の下から痒みを伝達する神経が表面に浮き出し、痒いと云う警告を出していると思われれます。

その時、親和性に優れ、保湿性が高く抗菌性のある野蚕シルクのゲルを塗れば破れた角質層をシルクゲルが補修した状態になり、とりあえず痒さは無くなると思えます。

## 痒さから解消されるもう一つの発見

老化を促進する余剰活性酸素の害を考えなければならぬと思います。

現在の地球環境は100年前とは比べ物にならないほど空気には化学物質が浮遊し、同様に水も汚染され、食品も幾種類もの化学物質が含まれ、ビタミン、各種ミネラル、繊維質不足の人工栽培野菜等に囲まれた現代生活は、余剰になった活性酸素の毒性を中和する力が弱く、どうしても体内に活性酸素が増えて、身体の老化等の様々な支障を起こす事になると考えられます。

加齢による痒みも活性酸素過多による皮膚の老化がその一因であれば、絹が活性酸素の害を中和して老化を抑制し、痒みを解消していると思えます。

## 絹化粧品品の機能性

シルク化粧品はシルクの持つ保湿性、抗菌性、防紫外線性、吸臭性、吸色素性などを期待した物です。

シルクは人に必要な18種類の必須アミノ酸で出来ていきますので、親和性に満ちていて殆どの人に拒否反応は有りません。(シルクアレレルギー者、1/25万人)

シルクローションをつけるとか顔が艶やかになり、紫外線から肌を守り日焼けを防ぎます。特に夏期には汗に含まれる老廃物から雑菌によりアンモニアなどが作ら

れ、汗臭さが夕方になると強くなって来ますが、シルクはそのような雑菌の繁殖を抑制しますので、汗臭さも和らぎます。そればかりでなく色素や臭いを吸収する性質もありますので少しではありますが、肌の美白効果が見られます。シミ、ソバカスなどが濃くなるのを防ぎ、体臭や老臭なども和らげます。また、コラーゲンの減少を僅かでも抑える効果もあるようです。使用実験ですが、肌の小ジワが少し目立たなくなります。

## シルク化粧品の色々

シルク入り化粧品は1980年頃から大手化粧品会社から発売されています。当時はシルクと云うイメージで売られていて、機能性を大きく取り上げているアイテムは殆ど有りませんが、昨今シルクの機能性が次々に解明されると、上記の様な様々な使用目的を持った化粧品が作られる様になって来ました。

絹は繭の種類、部位によってアミノ酸の構成比率も異なり、機能性も異なります。また絹をパウダやゲルにした時、その粒子の大きさでも機能性が違って来ます。それらの事は専門家の間では常識になって来ますが、薬事的な認知はされていませんので、機能性を明確に表示した化粧品はまだありません。

早く確かな研究が確立する事を願ってやみません。

## 本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2020年2月17日

### 花粉とウイルス

1月下旬からムズムズしていたもの

先週位からすっかり目が痒くなってきました

いよいよ花粉到来です

今年はコロナウイルスもあり

花粉によってエチケットマスクが出来なかった方もしだ

すので

少なからず良いのかななんて思います

しかし

感染したときにアレルギー症状がありますと

症状が強くなる場合もあります

ですので

ここ最近 本田のひとり言 で書きました予防法を参

考に

花粉 ウイルスを防いで行きましょ

う 免疫力が落ち何かしらに感染してしまつたら

ゆたぼん を肺の上に置き

水分補給で小便をして

ウイルスを早めに撃退しましょ

2020年3月2日

## 睡眠を妨げる夜中の尿意

免疫力を1番高くする方法は

もちろん 睡眠 です

23時までにご寝て朝までぐっすり…

とりたいところですが

夜中に尿意をもよおして起きてしまうという

ご相談を多々受けました

夜中の尿意って

起床時間まで後少して時に多いですよね

どうしたら朝まで寝られるか？

という事なんですが

就寝前の2〜3時間は水分を摂取しない

というのが大切なんです

「寝る前に水分は摂取した方が良いんじゃないですか？」

とその患者さん達にも聞かれましたが

むしろ

睡眠前ではなく起床時に飲むようにして下さい

ただ

喉は乾きますよね

1□だけ飲むとか □を湿らす程度にしておいて下さい

もちろん季節によって異なります

それでも改善が見られない方は

本田カイロで施術しますので遠慮なく相談してください

# 「江上浩二の独り言」 28 江上浩二

## のろし談義

これは2006年8月初めの備忘録で、なぜだか4年過ぎた2010年8月にマイブログでまとめたものの独り言である。

知り合いとのオフ会で「のろし」談義になってしまった。なぜ、のろし談義になってしまったかの理由は示さないが、以下の通りの箇条書き。

辞書をひくと、次の2文字が出てくる。狼煙、烽火。  
「のろし」の歴史は日本でも古い。中国の「のろし」は調べていないが、既にこのくらいのこと書かれている。  
646年 大化の詔に防人の規定（実際に配備されたか不明）

663年 白村江の戦いに敗戦。

唐・新羅連合が九州に來襲する恐れに対策。

664年 防人の実際の守備

防人と同時に烽火・狼煙の制度

狼煙の信号形式は不明。

その後、養老令で詳細が示される。

昼にあげる「のろし」が煙、夜に上げる「のろし」が火、これで、2種類の文字があることに納得。

あとは、私が調べた点は、仕事の絡みで光通信的な要素である。

烽火台の間隔はおおざっぱにいつて、40里（21km）で養老令、第十七 軍防令 66-76条にある。

これは馬を走らせる駅伝制の駅の間隔（昔の30里、約15kmぐらい）に似ている。この距離で、視力いくつの人のがのろしの間隔が判別できるか、計算した。今の視力1.0の定義で、約4.5メートル以上。

よく言われている、モンゴルの目のいい人は視力4.0、これだと1メートルぐらいでも見分けられることになる。

ちなみに、視力1.0の定義は5メートル離れて、Cという文字の間隔1.5ミリの隙間を識別できること。

面白い話で、当時の法令に以下のようにある。のろしの内容が判別できない時は、のろしが来た前の烽火台まで急いで走って行って確認せよと。上手い組織があって、長（おさ）と何人かの役どころで烽火台の番をすることが出来ている。足が速く、タフな番人が行くのだろう。

私の住んでいる、東京北区で滝野川の高台に豊島郡衙の遺跡が出た。小型正倉院作りの倉庫群があって、当時塔みたいなものもあったらしい。のろしの話に戻すと、駅伝制や烽火台の間隔、15-20kmぐらいのところ、何か当時の遺跡がないかと調べると、真東に下総市川に国

府台というやはり国衙あとがあつて、江戸川東側の高台で、こちら、豊島滝野川から見渡せる。もしや、ここにのろし台があつたのではと想像する。

さて、のろしは受けるものとする、豊島滝野川へはどこからのろしがきたのだろうか。よく調べると、南の方角、真南から若干西向きになるが武蔵国荏原郡大井駅（大森貝塚遺跡近く）がある、距離は15kmほど。こういう地理関係ものろし制度と何か関係あるかもしれない。

年月がたつても、人から人へと何か情報を伝えたいところに通信がある。言葉があつて、文字が無い文化では、所謂書いた文書を相手に届けることが出来ない。太鼓を叩く音で出来るだけ遠くまで、何かを伝える。話し言葉だけで通信をやらうとおのずから限界がある。おーい、おーい、だけと限界である。音だ高い音、低い音、伝わる距離に限界はあるが、あるパターンで何かを相手に伝えることが出来る。難しく言くと、今のコード化である。

のろしでも、それがあつたようだ。

1から4までの烽の数の節級（1〜4炬）で、少ない情報をパターン化していたらいい。さしずめ、今の時分割情報の走りであろうか。

時代は進んで、14世紀の朝鮮、八角亭の右後方にある

のはボンステと言ひ、その昔、烽火台として使用されていた。昼は煙、夜は火を焚き、国の状態を知らせていたという。朝鮮時代（1392〜1910）に首都を現在のソウルに移したあと建設され、約500年間もの間、使われたといわれている。驚くことに、松明を横に5が所並べて、どこに火が付くと、何を意味するという、5桁のコード化された情報システムを確立していた。

情報といつても、全て戦争、戦いに関することである。当時の一番、国を守る重要な情報である。

1. 平常時
2. 敵が現れた
3. 国境付近（まで来た）
4. （敵が）境界に侵入
5. （そこで）戦闘中

厳密なコード化ではないが、左から順にたいまつの数が増えると、上のように意味を持たしたのである。

日本では、中世では駅伝制が進み、早馬の時代になつて、どちらかという、いかにいい馬を供給するか、馬を育てる牧草地を選ぶとか、管理するかが主力になつて行つたことは詳しく歴史書に書かれている。

先日、観劇した花火（注：2010年8月1日 日光・今市市）も元は狼煙（烽火）に原点があるらしい。

漢詩研修 (四十二)

千代田岳精会 平井茂行

江南の春

杜

牧

千里鶯啼緑紅映

水村山郭酒旗風

南朝四百八十寺

多少の樓台煙雨中

千里鶯啼緑映紅

水村山郭酒旗風

南朝四百八十寺

多少樓臺煙雨中

【作者】 杜牧（八〇三〜八五二）晩唐の詩人。字は牧之<sup>ぼくし</sup>。号は樊川<sup>はんせん</sup>。陝西省長安県（現在の西安）の人。李商陰と共に晩唐を代表する詩人。この為、盛唐の李杜（李白・杜甫）に対して晩唐の李杜と言われた。有名な歴史学者・杜祐の孫に当たる名門の子弟。気質は生まれつき剛直で、その生涯は高級官僚として活躍した三十代前半迄と眼病を患った弟の面倒を見て栄達への挫折を味わった後半の時期に分けられる。弟一家を抱えて生活は苦しく、湖州や長安に滞在し五十歳で病に倒れた。

【語釈】 \* 江南……揚子江下流の南の地方。 \* 鶯……高麗鶯<sup>こうらいうぐいす</sup>の事。日本の鶯より大きく黄色で高い声で鳴く。 \* 緑紅……緑は柳、紅は桃。 \* 水村……川の畔<sup>ほとり</sup>の村。 \* 山郭……山裾の村。中国では村も町も城郭を巡らせている。 \* 酒旗……酒屋の看板にしている幟<sup>のぼり</sup>で青又は白の布を竹竿に付けたもの。 \* 南朝……中国南部に栄えた宋・齊・梁・陳の王朝（四二〇〜五八九）を指す。これに呉・東晋を加えて六朝と呼ぶ。南朝の貴族社会では不安な時代を反映して仏教が広い信仰を得ていた。 \* 四百八十寺……数が多し事を表し、仏教の隆盛ぶりを讃える。当時は五百余りの寺院があり、僧侶は十万人にも及んだ。 \* 多少……多いとの意味。 \* 楼台……高殿。ここでは寺院の塔や鐘楼等の高い建物を指す。 \* 煙雨……煙の如く降る霧雨。

【通釈】 千里一带広々とした土地のあちこちで鶯が啼き、見渡す限り木々の緑と花の紅とが互いに照り映えている。水辺の村も山間の里にも酒屋の旗が春風にはためき、思えばその昔この地方は南朝の都が有った所で、多くの寺院がその栄華を誇っていたのだ。煙るような霧雨の中に、数多くの堂塔が霞んで見えている。

【鑑賞】 中国唐代の詩史の上で、盛唐から中唐への洗練されてきた詩の美しさ、上手さの感覚は、風流の貴公子杜牧の才をまっとうに見事に花開いたと言える。

## 『真・善・美』について

中屋保之

四年ほど前に、詩吟を習い始めた。岳精流日本吟院千代田岳精会という団体名である。ここでは、稽古（私は、「練習」ではなく、「稽古」と思っている）に入る前に『宗家信条 真善美』を唱和するのが決まりとなっている。この会の創始者である横山岳精師は、詩を吟ずることにより「真」に触れ、「善」の心を持ち、「美」しいものに感動しようではないか、と提唱している。なかなか味わい深い言葉とは思うのだが、いざ人から問われても、歴とした答えが出来かねているのが現状である。少し考えてみるとうしよう。

評論家三宅雪嶺（一八六〇年七月七日～一九四五年十一月二十六日。哲学者、国粹主義者、評論家。石川県金沢市生まれ）は、その著「真善美日本人」の中で「人類は進化の法則に従って動くが、その理想とするところは真・善・美の極致に至ることである。日本人も人類の一部である以上、この理想の実現に与かる使命をもっており、日本民族の特色を発揮することこそが使命の達成である」と記している（日本大百科全書（ニッポニカ）より）。前述の《真・善・美の極致に至る》は、岳精会会詩の《吟の極致は真善美にあり》と共通する。また、日本が誇る世界的バレリーナである森下洋子さんはあるテレビ番組の中で、真は誠、善は行為、美はその結果と語っていた。

「真善美」の源を辿ると、古代ギリシアの哲学者であるプラトンの思想やその哲学の中心となる理論であるアイデア論へと行きつく。認識上の真理と、倫理上の善、そして、審美上の美という人間の精神が究極的に求める普遍的な価値のあり方を示す三つの概念であり、この三つは、それぞれ論理学・倫理学・美学というふう置き換えたほうが理解しやすいだろう。プラトンは、現実世界は理想的な世界の投影であり、理想（真善美）を求める活動が物事の本質だとした。現実世界の投影元であり、真善美を示す十全で過不足のない状態の世界をイデア（理想≡明治時代に直訳した用語）と呼ぶそうである。横山岳精師も我々に「詩吟を通じて、「物事の本質を見抜く力を養おうではないか」と示唆している気がする。「真善美」とは、その背後にある自己の理性、行動、感受性を重視していることが解る。

因みに、ユニクロ創業者の柳井正氏もこの「真善美」の実践を心がけているそうで、「私の生き方のモットーは、

正しいことをする、行動しながら修正していくということです。毎日の生活では、「真善美」を実践するように最善を尽くしています。英語では「Truth」「Goodness」「Beauty」と訳されるそれらの価値観を持ち続けることで、人生を信頼できる方法で生きていく事ができると信じています」と語っている。

また、全日本弓道連盟では「真・善・美」を弓道の「最高目標」と位置付けている。H・Pから抜粋してみる。『弓道には「真善美」という思想があります。「真」は、一射ごとに正しい射法を目指すことを意味します。「善」は平常心を保ち、礼節と慈しみの心を大切にする事です。「美」は、「真」の正しい射法と「善」の平常心が一体となったときに体現される、理想的な美しい弓を表しています。弓の世界で、「美」は「真」の形と「善」の心が一体となった時に現われると言われています。』とあるが、森下洋子さんも対談の中で『わたしはいつも、真・善、真・善です。美というものは、それが出来た後にでてくるものだ…』と話している。

高校時代の部活で弓道部に所属していたことは以前触れた。そのささやかな経験から、詩吟と弓との共通点が私にとって嬉しい。再び全日本弓道連盟のH・Pから、『正しい射行は、正しい姿勢から。背骨を伸ばし、胸郭を広げて左右の均衡を図り、氣力を丹田（ヘソの下）にあり、氣力が集まる場所）に収め、精神の集中を持続する。そこから正確な力が生まれます。「自分」「弓」「的」の三者が一体となった瞬間、果敢に射放ちます。的中しない場合、すべての原因は自分にあるので、答えを求め、自己を見つめます。その繰り返しですが、精神の修練に大きくプラスとなることも、弓道が愛され続ける魅力のひとつです。』

吟も弓も、対人競技ではないので全ては自己完結である。基本的には、詩吟も一人で舞台上に立ち、身振り手振りは厳禁。サツと吟じてサツと引つ込む。無駄な動きを避ける。声援もなし。弓道も矢が的に届くまでは声援はしないなど。また、息遣いや姿勢なども似ているところが多々あるような気がしている。

「真善美」について、横山岳精師がどのようなメッセージを込めて唱えたのか、まだまだ興味が尽きない。

最後に、二首

かくてなほあくがれますか真善美わが手の花はくれなるよ君  
真善美なんて理屈はもういいの紅ねいろの恋の花を摘んでよ

晶子  
万智

電車でんしゃに乗りのて大村湾おおむらわんを過すぐ

横山精真

銀波ぎんば瀲灩れんえんとして 長山ちやうざんを仰あおぎ

翠嶂すいしよう従容じゆうようとして 大湾だいわんを望のぞむ

遊子ゆうし碕きしに沿そうて 勝景しようけいを愉たのしみ

暫しばらく霞彩かさいを偕ともにし 郷関きやうかんに入いる



(語釈) ○銀波・・・美しい波。○激瀾・・・さざ波の連なり動くさま。○長山・・・対岸の長浦岳。○翠嶂・・・みどりの山の峰。○従容・・・ゆつたりと落ち着いている。○大湾・・・大村湾。○遊子・・・旅人。ここでは作者。○碕・・・崎。岸の湾曲した所。○勝景・・・素晴らしい景色。○愉しむ・・・楽しむ。心が和らぐ。○霞彩・・・夕焼け。○郷関・・・故郷。

(大意) 美しいさざ波が連なりわたつて、その海は西彼杵半島の長浦岳を仰ぎ、その山の峰々はゆつたりと構えて大村湾を望んでいる。電車は湾曲した岸を走り、私は車窓から大村湾の美しい眺めに心andraげて見つめるばかり。やがて日は暮れなずんで夕焼けがせまり、夕焼けと共に故郷、佐世保に入つてゆくのである。

## 乗電車過大村灣

銀波激瀾仰長山 翠嶂従容望大灣  
遊子沿碕愉勝景 暫偕霞彩入郷關

「佐世保は良かとよ！」随分、詩吟の關係で人を紹介したり、グループで一緒に連れ帰つた。ふる里佐世保を誇つている。今回は大村で大いに吟じ、佐世保の吟友が車で送つて呉れた。語りながら静かな海を見た。お互いに褒め称える「ほんなごて良かね・・・」。暮れなずむ夕日がぼーっと水面に映つた。友は確か「日の柱が立つ」と表現した。そして今日は絶好のシャッターチャンスと車を止めた。スマートフォンでは上手く写らないと思ひ乍らも私も付き合つた。佐世保ではまだ夕日の西海を眺めることが出来た。そして又飲みに町へ下りた。

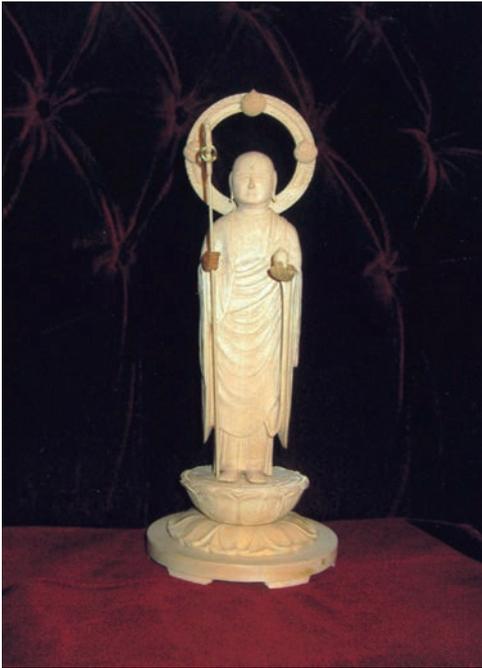
帰りは一人在来線で大村に向かつた。天気も良く、渡り鳥がそこかしこに群れを成して羽を休めている。自律神経が癒される旅が出来るのです。

## 仏像彫刻 (三)

### 藤崎 徹

次は、「地藏菩薩」を彫ります。

ここからは、頭から、足の裏までが一本の木で彫ります。足下の蓮台（れんだい）、その下に続く返花（かえりばな）、框（かまち）等は別々の木を継ぎ足します。持ち物、錫杖（しゃくじょう）、光背（こうはい）も別物です。全高さは26センチメートル、身丈は20センチメートルあります。制作期間に七ヶ月間ほど掛かってしまいました。



#### (1) 仏像の役割と意味

仏像はなぜ造られたのだろうか。紀元一世紀末、釈迦入滅後の約五百年後に初めて仏像が誕生する。

仏像は釈迦の悟り、この世の真実、宇宙の真理を伝え、多くの人間を悟りの世界へ導き、救済するために造られた。それが仏像の持つ役割と意味である。

・大乘仏教が誕生し、広まることによって、信仰者も増え、彼らの様々な苦悩、煩惱に応えるために、仏像は多種多様化した。

仏像は仏（釈迦）の姿や天界などに住む神々などを彫刻などや絵画で表したものだ、それでは仏像の持つ役割と意味はなんだろうか。また、多種多様な仏像はあるのはなぜなのだろうか。

釈迦は悟りを開いた後、悟りの内容を理解してもらえないだろうと、そのまま入滅しようとしている。それだけ釈迦が悟った真理は、難しいものだということがわかる。また、釈迦が入滅する際、弟子たちに対して「自灯明（じとうみょう）、法灯明（ほうとうみょう）」と言う言葉を残している。これは「自己を灯明とし、法を灯明として生きよ。すべては移ろいゆく。修行僧たちよ、怠りなく努め励めよ」という意味である。

このことが釈迦の姿を偶像化しなかったことと関係があるのだろうか。

しかし、大乘仏教（出家などできない多くの人たちに仏教の真理を伝える、救済する。）が誕生し、広がっていくにしたがって、様々な民族や文化を持つ人々に仏教の教えを言葉だけで伝えることが困難になる。

また、信者の苦悩の内容も異なってくる。それに応えるために、また、多くの功德を実現するために多種多様な仏像を造る必要があった。

・密教の成立によって、仏像は多種多様化する。  
 空海は平安時代に長安（現在の中国・西安）で密教の教えを授かり、日本に密教を持ち帰った。

密教はもともとインドの神話やヒンドゥー教に登場する神々と仏教とを融合させた教えであるため、様々な仏教が誕生する。なかでも宇宙の真理を神格化した大日如来は密教界での最高神であり、如来、菩薩、明王のすべては大日如来の化身であるとされた。そのため、さらに数多くの功德を持つ仏像が造られるようになった。

・「如来」「菩薩」「明王」「天部」を代表する仏像の意味・  
 「如来」は悟りを開いた人の意味で、釈迦を表す。仏界の最高位に位置する仏像である。

「菩薩」は如来の衆生（しゅじょう）救済の補佐をする存在で、出家前の釈迦の姿に表される。

「明王」は密教で考え出された尊像で、大日如来の使者として仏敵を追い払い、衆生を帰依させる。

「天部」は仏教と仏法を守る護法神で、現世利益をもたらす。

・代表的な仏像の役割と意味・

・・・如来・・・

・ 釈迦如来……仏像の基本形。悟りを開いた釈迦の姿。すべての願いを聞き入れる高い救済。仏像の基本形

・ 阿弥陀如来……無量の寿命（永遠の生命）を与える。念仏を唱えれば極楽浄土に往生できる。

・ 薬師如来……全ての人の病気を癒す。国の災禍も治す。

・ 大日如来……密教における最高位。叡智と慈悲を表す。

・・・菩薩・・・

・ 弥勒菩薩……釈迦の次に釈迦になる未来仏、衆生を救う。

・ 観音菩薩……変化観音ですべての基本となる観音。慈悲の心であらゆる災い、悩みから救う。

・ 十一面観音……十一の顔を持ち、その功德で衆生のあらゆる悩み、病苦などから救う。

・ 千手観音……千本の手と目ですべての衆生を救う。

・ 地藏菩薩……弥勒が出現するまで、六道に苦しむ人々を救済する。

・ 日光・月光菩薩・薬師如来の脇侍。薬師如来を守護し功德をさらなるものにする。

・・・明王・・・

・ 不動明王……一切の煩惱を焼き尽くす。

・・・天部・・・

・ 梵天……天部の最高位。仏法を守護する。

・ 帝釈天……天部の最高位。仏法を守る。

・ 金剛力士……悪を退散させ仏法を守護し、煩惱を粉碎する。

・ 四天王……四方（東西南北）を守護する四神。

# 夢日記

夏 目 勝 弘

二月九日の暁に突然、野太い声にて、百首の歌を作れと告げられた。

そして目の前に、金魚鉢が、宙に現れメダカが匹泳いでいる。

告げられまゝに、目高を見て、五首の歌を即座に作り、目の覚めた。

ふと明恵上人の夢日記が頭に浮ぶも、また眠ってしまった。

いつもの時間に目覚めた、夢のなかで作った歌が五首が、すらすらと出てきた。

また明恵上人の夢日記が、頭に浮ぶ。とりあえず書き残しておくことにした。

明恵上人のように、多数の夢が、書き残せるわけもない。だがビデオを見るように、忘れない夢が十ほどはある。

その二つが、六十年前の二十代に見て、今もビデオを見るように、鮮明に思い出せる夢である。

それは水墨画に、よくある深山幽谷を流れる谷川沿いの、細い道を修行僧の姿で、とほとほと一人で歩いている俯瞰図であった。

その後、忘れない夢を見るようになったのは、三・四年前に、二メートルほどの石垣より、舗装路に落ち、救急車にて運ばれ、意識が、数時間戻らなかつた。

オーイオーイの声に、朦朧とした目でほんやりと、四角な窓いっぱい顔が見えた。

ここがどこか分かるか、名前は、住所はと矢継ぎ早に問いてくる。即座に答えて、この世に戻つたが、落ちる二三分の前の行動が

飛んでいて思い出せない。

頭を四十一針、顔面を八針縫つたが、六日間で、抜糸し退院した。この事故があつてより、霊的な夢を見るが多くなつてきた。なかでも身近な人たちが、夢によく出て、お願されたり、頼み事を言われたりすることが多い、

なかでも、身近な人がよく会いにくることが、ほとんどである。

直近では、昨年十二月に、一年ほど前に亡くなった、兄弟みたく、戦後を生きてきた隣人。

知人も隣人も家族すらも、識別できず、死ぬことも忘れてしまった認知症の人だつた。

夢に出てきて、ご無沙汰しています。これからも、お願いしたいこともありますので、住所等を、聞かせてくださいと。

そう言つたまま消えてしまった。村の役員をしていた、時の姿、服装で、おだやかな口調で話した。あつというまに、見えなくなつてしまい、見覚えては、どうすればよいのだろうと、思いを運らしていた。

夢に現われてきたときは、村の役員をしていた働き盛りの年代であり、服装も、その時着ていた服装であつた。

あの世には、認知症も、病もない、楽しい生活があるのだろうかと思つた。

明恵上人の、夢日記が、一番気にかかる、今日このごろ。明恵上人の歌二首

○夢の世のうつなりせばいかげむさめゆくほどを待てばこそあれ

○夢のうちにざからふ花はしほむとも覚めなむままにこのみなりせば

○初夢に古郷を見て涙かな

一茶  
○初夢の思ひしことを見ざりけり 正岡子規

## 「氷魚」のことから (231) 岡本八千代

とうとう、あの木瓜の実が、老いひしがれて小さく軽くなつてしまった。……老いるとはこういうことかと、そつと、まだ元気な木瓜の木の根元の土の中へ埋めてしまった。なんとなく、ほつとした気持ちと寂しい気持ちになりつつある私。

中日新聞夕刊に、ドナルド・キーン先生の記事が載っていた。

・「二月二十四日の命日は「黄犬忌」と呼ばれることになり、東京・紀伊国屋ホールでその大いなる業績を語るセミナーが開かれる」……と。

キーン先生の書かれた「日本文学の歴史」の全18巻を私は持っている。嬉しい。

とうとう日本に帰化されて、日本人になつてしまわれた先生。ああ「黄犬忌」が近づく。

ここからは、茂吉のことを書こうと思う。

明治三十八年六月、第一高等学校を卒業した茂吉は、七月一日に、斎藤紀一の養子として入籍した。九月には東京帝国大学医科大学に入学した。そして、明治四十三年十二月に大学を卒業する。しかし、その前の年十一月から一ヶ月ほどの病気をし、卒業を一年延ばしたのであった。卒業の時の成績は百三十二名中、百三十一番であったとか。(藤岡武雄という人は書いている)

・明治四十四年二月、東京帝国大学医科大学副手となり、附属病院勤務の嘱託に。

・七月には東京府巢鴨病院医員となる。

・呉秀三、三宅鉦一のもとで精神病学を専攻しはじめた。

・大正三年四月に、斎藤紀一の長女輝子と結婚した。

・大正六年一月に、大学と巢鴨病院の勤務とともに依願退職した。

・秋頃、茂吉に長崎医学専門学校教授就任のはなしがはじまり十二月に辞令が出て赴任した。

・大正十年十月から大正十三年十一月までドイツ留学。はじめはウィーンにて、マールブルクの神経学研究所に通った。

・大正十二年七月からはミュンヘンに移り、シュピールマイエルの教室に入った。

・大正十三年十月に医学博士の学位を受けた。

・同年十二月三十一日、帰国の船中、青山脳病院全焼の報を受けた。

・病院は再建された。(大正十五年)

・翌年昭和二年四月に茂吉は病院長になる。

・昭和三年十一月に斎藤紀一が死んだ。

・昭和二十年五月、空襲で自宅も病院も焼失してしまつた。

・茂吉はこの時六十四歳。四月に郷里の金瓶に疎開者として帰っていた。

・医学者、医師、病院長としての茂吉のしごとは、そこで終わった。

以上は、「近代日本の文豪3、伊藤整編」を参考にした。これからの茂吉が歌人としての道を如何にたどつてゆくのかを求めたい。

## 編集室だより【二〇二〇年二月】

今泉 由利

○平穩に暮していた日々を二週間の留守にしたことで、常に戻す努力が要ることを知る。本局郵便局の指示どおりに手続をして、留守にしたのに、要を得ないことになっていった。二度も郵便局まで出掛け、行列をし・・・。「係が居ないから渡せない」「その郵便物は、配達に出でてしまっている」とか・・・。なかなか入手できなかったことにびびくり。

○やさしいムードで、おだやかに育っていた植木鉢のブーゲンビリア、沢山咲いていた花も、葉っぱも、吹き飛ばすような風が吹いたらしい。鉢植のコーヒーの木も、色失せて、疲れ果てていた。「ごめんなさい。留守なんぞして」

○三河アララギに長く「童謡」を掲載して下さっている高橋育郎氏の紹介により、東京都北区立中央図書館に毎月々の「三河アララギ」誌を、届けさせていただけになりました。短歌、俳句、漢詩、随筆等・・・どんなことでも、皆様と一緒出来ます機会がありますように。

○北区立図書館には、ドナルド・キーン先生のコーナーがあります。先生が、日本国籍を取られ、近くに住まわれ、毎月々の三河アララギ誌をお届けさせていただけるのが、私の最大の喜びでした。あたかも、先生が近くに居て下さるような、そんな図書館です。

○さいたま・スパー・アリーナ。「QUEEN + ADAM・LA

MBERG」コンサートへ。

世界中で大ヒットした「ボヘミアン・ラプソディ」の成功を受けての「ラプソディ・ツアー」。何となく身体が覚えてしまっている曲が演奏されたり、天まで届くかの透き徹る歌声に・・・泣きだしてしまいました。

○小石川後楽園へ俳句の吟行。確かにそう思っていたのに、小石川植物園の温室が新しく出来上がり、どんな風になったのか気になっていた。小石川植物園に着いて、誰も居ないからおかしいな！と思っただけれど、人の気配のない独り占の植物園がうれしくて、冬姿の植物達、新しい温室・・・仲間みたいな、なじみの木々草々と遊び、句作し、さて、どこに集合するのか・・・ここでやつと間違えたことに気付くのでした。かさね俳句会の皆様、ごめんなさい。

○突如、コロナ・ウイルスの出現。驚き、恐ろしく、高齢者は、すぐ死んでしまう！と報道され、まだ死んでしまう設定など皆目出ていないのだから、うろろろする。

お仲間のある習い事は、全て休講になり。何をしていたら良いのか！

三河アララギに連載して下さっている「本田カイロプラクティック先生」の教えに従い、自分を守っています。

体温計すら持ち合わせていない不養生の日々でしたが、ひんぱんにお茶系を飲み、日向ぼっこをし、免疫力を考えたものをおいただき、室内の湿度に気を配り、しっかり湯舟に浸って、あたかさを感じつつ眠ります。

本田先生。お世話になっております。ありがとうございます。

## 野菜・果物・まんだら (26) 双子椰子 ココ・デ・メール *Lodoicea maldivica*.



- セーシェル諸島。プララン島とキュリコーズ島。ヴァレドメ自然保護区、固有のヤシ科の植物。
- 双子椰子の実は、世界一小さい世界遺産。
- 世界最大の椰子の実は、小さいもので10kgほど、中には種が3つ入っている。
- 18世紀半ばに、探検家がこの島を発見。
- セーシェル溪谷の周囲の山に、海からの風が当って、雨がたっぷり降る。4000本の双子椰子が自生している。
- 雄木と雌木があり、花粉は、セーシェル、ジャイアント・グリーン・ゲッコーというヤモリが仲立ちすると。受粉から実が熟すまで、7年ほどかかる。
- 双子椰子の古代名は、*Lodoicea Callipyge*、ギリシャ語で、美しい臀部の意。みごとに不思議な形をしている。
- 育種学の近藤博士が、「変なものが好きですね」と私に手渡して下さってから、ずっと近くであって、毎日、毎日、双子椰子への思いに浸っている。
- ベトナムとカンボジアに旅し、椰子の果汁を飲み続けていたから、味など考えてもみなかった双子椰子の味について思いを馳せた。椰子の果汁を飲み終えてから、スプーンで、油脂をけずって食したり、ココナツとも親しくなった。
- ココヤシの実の胚乳を压榨した液体からオイル分を分離させたココナツオイルは飽和脂肪酸を多くふくみ、消化吸収がすみやかで分解が早く、抗酸化効果、免疫力、老化抑制、風邪予防などに効果。アルツハイマーの脳のエネルギーとして認知機能の改善が認められると。天然のビタミンEを含み、紫外線をブロック効果もあるという。

今泉由利

## 「三河アララギ」について

- ◇三河アララギ発行所 〒一四一・〇〇二二  
東京都北区王子本町一・二六・六・A
- TEL (〇三) 五九二四・二〇六五
- ◇URL <http://imazumiyuri.jp/>
- E-mail [yurimazumi@jcom.zaq.ne.jp](mailto:yurimazumi@jcom.zaq.ne.jp)
- ◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子
- ◇三河アララギ誌は毎月発行します。
- ◇会員・今までで会員の方。希望される方。
- ◇会費制 廃止。
- ◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千円。
- ◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九
- ◇原稿送付先 〒一四一・〇〇二二  
東京都北区王子本町一・二六・六・A  
今泉由利 宛
- ◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。